

2020年3月12日

プレスリリース

**中小企業向け事業保険のエヌエヌ生命**  
**高校生のためのソーシャルビジネス企画コンテスト**  
**「Social Innovation Relay 2019/20」国内大会を開催**  
**優勝は本郷高等学校「Hawk4373」チームに決定**

生命保険を通じて日本の中小企業を応援するエヌエヌ生命保険株式会社（代表取締役社長：フランク・エイシク、本社：東京都千代田区、以下「エヌエヌ生命」）は、このほど高校生のためのソーシャルビジネス企画コンテスト「Social Innovation Relay 2019/20（ソーシャルイノベーション・リレー）」国内大会を開催し、優勝チームを決定しました。

当大会は、学生自らが身の回りにおける課題を見つけ、ソーシャルビジネスとして解決すべくアイデアを国内外の高校生たちと競うコンテストとして、2015年より行っています。

大会当日は、全国約120チームの中から第一次、第二次の書類選考を勝ち抜いた7チームが会場に集合しました。原則8分という限られた中で、ライバル校の学生や教員、3名の審査員を前に、全てのチームが熱意を持ってビジネスアイデアをプレゼンテーション方式で発表しました。

ビジネスアイデアの傾向として、社会の動向を反映し、SDGsを意識したプランが多く見られました。その中で次の3チームが上位を飾り、審査員特別賞に1チームが選定されました。

- 1位 本郷高等学校(東京都豊島区) 「Hawk4373」チーム  
テーマ「Map for the Blind in Stations 視覚障がい者のための駅構内案内アプリ」
- 2位 兵庫県立大学附属高等学校(兵庫県赤穂郡) 「NASA」チーム  
テーマ「E-Cology 生体に関する情報共有ネットワーク（外来種図鑑アプリ）」
- 3位 東京電機大学高等学校(東京都小金井市) 「yumepirika」チーム  
テーマ「震災被災時における体育館などでの自家発電（ペルチェ素子による発電座布団）」

審査員特別賞

- 海陽学園中等教育学校 「extremist」チーム（愛知県蒲郡市）  
テーマ「ストレス軽減アプリ」

1位の「Hawk4373」チームは、視覚障害者向けに、混雑した駅で出口までの音声案内をするアプリケーションの展開をビジネスアイデアとして発表しました。視覚障害者が駅構内で鉄道会社職員に支援を受ける場合、2日前までの予約が必須となるため、急な予定変更が生じた場合の対応が難しく、駅構内で迷うことが多いのが現状です。このアプリケーションを使用することで視覚障害者が抱く外出することへの不安を軽減し、精神・身体両方の健康増進につながることを期待されます。また、視覚障害者支援にあたる鉄道会社職員の業務が軽減され、視覚障害者の鉄道利用者数増加が見込まれることを訴えました。

このビジネスアイデアは、「障害の4つのバリア」のうち「文化・情報面でのバリア」を縮小し、SDGs10番目の「人や国の不平等をなくそう」に該当します。

「Hawk4373」チームは、今年6月に予定されている国際大会（13カ国の参加予定）に進みます。

#### **本郷高等学校 「Hawk4373」チームリーダー山崎 誠悟さんのコメント：**

「懇親会での優勝予想は他のチームだったので、結果発表のときは動揺しました。下馬評を覆した理由は『バランスが良かったから』と審査員の方が講評で教えてくれました。プレゼンを同級生や先輩、先生に見てもらい、添削していく過程で自然とバランスが整ったのだと思います。国際大会へ向けてまた多くの方にサポートして頂くとありますが、感謝を忘れずにバランス良いプレゼンを作るべく、僕たちはベストを尽くします。」



写真：優勝チーム Hawk4373

## 「Social Innovation Relay 2019/20」 大会概要

**大会名：** 「Social Innovation Relay 2019/20（ソーシャルイノベーション・リレー）」

**共催：** エヌエヌ生命保険株式会社、NN グループ  
公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本、  
ジュニア・アチーブメント ヨーロッパ（Young Enterprise）



**実施日時：** 2020年2月23日（日）

**出場チーム：** **AICJ 高等学校**（広島県広島市） チーム名：Thrivors  
テーマ：「障がい者スポーツのためのコンタクトレンズ」  
**兵庫県立大学附属高等学校**（兵庫県赤穂郡） チーム名：NASA  
テーマ：「E-Cology 生体に関する情報共有ネットワーク（外来種図鑑アプリ）」  
**兵庫県立大学附属高等学校**（兵庫県赤穂郡） チーム名：Sakura  
テーマ：「Fのために」  
**東京電機大学高等学校**（東京都小金井市） チーム名：StarWings  
テーマ：「震災被災時における体育館などでの自家発電（ペルチェ素子による発電座布団）」  
**本郷高等学校**（東京都豊島区） チーム名：Hawk4373  
テーマ：「Map for the Blind in Stations 視覚障がい者のための駅構内案内アプリ」  
**京都府立山城高等学校**（京都府京都市） チーム名：TGcorporation  
テーマ：「質の高い教育を世界へ～ITが繋ぐ、学びの輪～」  
**海陽中等教育学校**（愛知県蒲郡市） チーム名：extremist  
テーマ：「ストレス軽減アプリ」

**実施方法：** プレゼンテーション8分、質疑応答5分。審査員による審査で優勝チームを決定

**審査員：** 大野 真徳氏 BNI インターナショナル株式会社 代表取締役  
伊藤 梓氏 Decision Management Consultant  
佐川 秀雄 公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本 代表理事

**アワード：**（国内大会優勝）オンライン国際大会出場権と図書カード、表彰状  
（同準優勝・3位）図書カードと表彰状

## ご参考:

ソーシャル イノベーション リレー

### □ 「Social Innovation Relay (SIR)」

「SIR」は、高校生のためのソーシャルビジネス企画のコンテスト形式の教育プログラムです。高校生が自ら情報収集・分析をして社会的課題を見つけ、その解決方法としての「ソーシャルビジネス」のアイデアをチームごとに競い合うもので、アクティブラーニング形態をとっています。日本は昨年よりこのコンテストに参加しており、国内大会での優勝チームはオンラインの国際大会へ進出。国際大会で見事優勝したチームは、ヨーロッパで開催される SIR 修了生カンファレンスに招待される予定です。

### □ ジュニア・アチーブメントについて

1919年に米国で発足した世界最大の経済教育団体で、民間の非営利活動を展開しています。日本本部は1995年に設立。以来、教材を導入する学校が全国に拡大しています。社会情勢がいかように変化しようとも、子どもたちが自身の確たる意志で進路や将来を選択・設計できるよう、「社会の仕組み」や「経済の動き」を正しく理解する機会を提供し、基本的資質（主体的に社会で自立できる力）を育む支援を続けています。詳しくは、ウェブサイト [www.ja-japan.org](http://www.ja-japan.org) をご参照下さい。

### □ エヌエヌ生命の社会貢献活動「未来の社長」について

エヌエヌ生命は、「未来の社長」を社会貢献活動のテーマに据えています。日本の中小企業を支える生命保険会社として、次世代を継ぐ学生や子どもたちに教育機会や起業・経営に関する育成機会の創出を目指しています。

「SIR」の取り組みのほか、NAHA マラソンでのエヌエヌ・チャリティランナーによる沖縄の児童養護施設への教育支援、および、次世代の経営者に向けた「家業イノベーション・ラボ」のプログラムを展開しております。

詳しくは [こちら](#) をご覧ください。

本件に関する問い合わせ先（報道機関用） エヌエヌ生命保険株式会社 広報部 原 TEL: 070-1640-6661 Email: ML-IL-JP-CCA@nnlife.co.jp
--

エヌエヌ生命は、オランダにルーツを持ち、170年におよぶ伝統を誇る NN グループの一員です。NN グループは、欧州および日本を主な拠点とし、18カ国にわたり、保険および資産運用事業を展開しています。その名は、源流である「ナショナル・ネーデルランデン」に由来しています。エヌエヌ生命は、1986年に日本で初めてのヨーロッパ生まれの生命保険会社として営業を開始して以来、30年以上にわたり、中小企業とその経営者が財務や財産の面で安定した将来を確保できるよう支援しています。